

2021年7月13日

(公財)北海道サッカー協会 御中

## 2021 北海道レフェリーアカデミー 第3回 事業報告書

報告者：濱岡優太（函館地区）

【日時】 2021年6月26日（土）・6月27日（日）  
【場所】 苫小牧市緑ヶ丘サッカー場（人工芝）  
札幌ホテルヤマチ  
札幌大谷高校 丘珠グラウンド  
【参加者】 審判員：一瀬哲平 岡聖人 志村奎祐 濱岡優太 山口麗弥  
インストラクター：古曾部統太郎氏 今川一輔氏 岡田渉氏  
講師：佐々木様 高橋様

<6月26日>

8時45分 集合 @苫小牧市緑ヶ丘サッカー場

10時00分 試合実践① U-18道南ブロックリーグI部 駒大苫小牧高校2nd vs 北海道栄高校  
主審：志村 副審1：濱岡 副審2：岡 担当INS：今川 ins

### 【自己分析】

試合中や、映像を確認してもファウルの基準は一貫していた。CKの際両チームの選手がゴール前でポジション争いをしていたため、選手を呼び声を掛けた。その後のCKではやってなかったので効果的だった。後半にCKの再開後に攻撃側のファウルを取ったが、前半に声を掛けていたためファウルを理解していた。



### 【INS分析】

判定の基準は概ね一貫していたと感じた。また59分駒沢14番の警告（反スポ）も妥当な判断、判定であった。46分のADVの適当は妥当であるが、56分道栄の選手がトリップされADVを適用した場面は、道栄の利益を考慮するFKとして判断したい場面であった。11分のCKのマネジメントは、その後の防止も含めて適切な対応であった。チームの戦術の理解と知識をより深めてマネジメントを行えばさらにいいパフォーマンスを発揮できるでしょう。

12時10分 試合実践② U-18道南ブロックリーグI部 函大有斗高校 vs 苫小牧中央高校  
主審：一瀬 副審1：山口 担当INS：岡田 ins

### 【自己分析】

1試合を通して、マネジメントを的確に出来たと感じている。しかし、14分の苫小牧の選手に注意を与えた場面では自分のジェスチャーが大きく、選手が犯した反則に対しては過度であった。17分の警告を与えた場面ではカードを提示した対象の選手が不明確になっていたため、観ている人にもわかりやすいように選手を引き出して提示するようにしたい。79分の有斗の選手が苫小牧の選手に対してチャージした事象ではファウルをした選手とコミュニケーションを取るために、選手がポジションに戻るまでの経路に回り込み、コミュニケーションを取り2人の関係を築くことができた。また、FKのマネジメントは適切に行っていたので継続させたい。

## 【INS 分析】

13分、14分と立て続けにマネジメントをしたことで、ゲームコントロールに一定の効果があったと感じた。自己分析でもあるように14分のマネージメントについて、ジェスチャーすること自体は申し分ないが必要以上にすると、周囲に誤解を招くことになりかねないので状況によって工夫が必要である。また、52分苦小牧の選手に不満が貯まる前に冷静な対応が必要であった。

## 昼食・移動

16時00分 演劇講座 @札幌ホテルヤマチ 講師：佐々木様

体を動かし、表情や動きで自分の感情を相手に分かりやすく伝える事を主に行った。

①審判員が自由に歩き回り方向転換をしてもお互いにぶつからないように、すれ違った人とアイコンタクトを取るウォーミングアップを行なった。

②円になり順番に動きに対して同じ動きをすることを行なった。

③お題に沿って4人が1人ずつヒントとなる動きをして、そのお題を当てるゲームを行なった。

④5人が喜怒哀楽を徐々に大きくなっていくように身振り手振り、声を用いて表現した。

この講座では恥じらいを捨てていかに相手に分かりやすく伝えるか、どのような動きをすればより伝わるかを学べた。「伝える」ということは審判をするうえで必要不可欠なもので、言葉だけではなく表情や動きも用いることで、選手だけではなく観客の人たちにも伝わりやすく、納得してもらえることを再認識することができた。



17時00分 英会話 @札幌ホテルヤマチ 講座：高橋様



①元イタリア代表のロベルト・バッジョ選手の名言から「courage to speak English」をテーマに自分の好きなものをホワイトボードを用いて発表した。

②背中に書いてある動物、有名人を英語で質問をして当てるというゲームを行った。

最初の講師からの質問で「英語に苦手意識を持っている」と回答した審判員が多かったが徐々に勇気を持って、積極的に英語を使い講義に参加できた。この勇気を持つということは英会話だけではなく、審判員として勇気を持って判断して笛を吹くことや、日常生活にも生かしていけることを学んだ。

18時00分 試合振り返り

19時00分 終了・解散

<6月27日>

10時15分 集合 @札幌大谷高校 丘珠グラウンド



11時30分 試合実践③ U-18 札幌ブロックリーグ3部 札幌大谷 3rd vs 東海札幌 4th  
主審：岡 副審1：一瀬 担当 INS：岡田 ins

【自己分析】

ファウルの基準や判定については概ね一貫させることができた。また、副審との協力も概ね良好であった。副審の判定しづらい箇所では主審としてリードすることができた。A2のファウルサポートに関しても反応することができた。しかしA1のフлакアップが全体的に早かった点に関して、キャンセルをかけるべきところでかけられなかった。試合前の打ち合わせやHTなどでしっかりと伝えるべきであった。自分のことで精一杯になるのではなく、そういった点でもしっかりとリーダーシップを発揮していかなければならないと感じた。

【INS分析】

主審と副審の協力に関して、十分な打ち合わせができなくても、43分、54分はオフサイドが成立していない状況で笛を鳴らす判断をしたことは、主審として状況が把握できていないように感じた。副審のフラッグを下げさせる勇気も必要である。アドバンテージの適用では、90+1分のADVの適用は良いが、14分東海の選手がトリップした場面でもADVを適用することができれば、サッカーの面白さが増す場面であった。さらなる積極的なアドバンテージの適用を期待したい。

13時30分 試合実践④ U-18 札幌ブロックリーグ2部 札幌東 vs 東海札幌 4th  
主審：山口 副審1：志村 担当 INS：今川 ins

【自己分析】

全体的に満足いく動き出しだった。特に開始1分の東高校のカウンターでは、右サイドから攻撃している状況で左サイドの攻撃の枚数や位置を首を振って確認し、コースどりをいち早く決めて膨らんでコースをとることができた。しかし、首を振っているということは俯瞰的に見れていない・出し手と受け手が視野に入っていないということにもなるので、もっとポジショニングに気をつけたい。また、スプリントに入る瞬間がわかりやすく、見栄えがあまりよくないと感じたので、予測の精度を上げてあからさまなスプリントをしなくてもいいようになりたいと思う。

【INS分析】

審判員としての強さという意味では、11分の警告の場面、26分の注意のシーンなど躊躇せず対応することができていた。また、この試合に適合したフィジカルであった。距離は概ね15m前後を保っていたし、角度は視野を確保できる体の向きで争点を監視していて評価したい。しかしFK時のポジショニングに若干の課題が見られた(19分、26分)。監視する優先順位は何か？次の争点は何処か？競技者の位置と数、ボールの軌道などを考慮してポジションを決めてほしい。

15時30分 試合実践⑤ U-18 札幌ブロックリーグ4部 札幌東 2nd vs 札幌白陵・あすかぜ  
主審：濱岡 副審1：一瀬 担当 INS：古曾部 ins

【自己分析】

この試合は1試合通してマネジメントができていなかった。12分、20分、68分と各所でマネジメントが必要であった。できていなかった結果、選手間で言い合いが起きてしまった。こういった事を未然に防ぐためにも、必要な場面でのマネジメントをしっかり行い、主審としてのとしての権威を示さなければならない。また選手ともしっかり向き合い、主審がリーダーシップを発揮しゲームをコントロールしなければならない。

【INS分析】

この試合を担当するにあたって十分なフィジカル能力であった。63分の攻守の切り替えに対する動きは素晴らしいです。しかし、競技規則の精神を犯す競技者がいるならば、審判員として毅然と対応するべきです。ファウルを犯した後また次のファウルを犯さないようにするためにマネジメントが必要である。選手をコントロールするためには、「毅然さ」「自信」が必要です。そのためには、自信があるように見える審判員をよく観察し、いいところを盗むと良いです。

17時30分 試合振り返り

18時00分 終了・解散